

チョウ、守り続けます



三船君・落合君 このページではぼくたちやぼくたちの先輩が取り組んだチョウを守る活動を紹介します。



チョウにはまりました

初めてチョウを見たのは、小学校3年生のときでした。そのときはデフノトネリコの木を学校に植えたり、幼虫、さなぎ、成虫の観察会もしました。そして、だんだんチョウにはまっていきました。普代小の周りに早くたくさんチョウがいるようになればいいなと思いました。



普代小のとき保護活動をした熊谷隆志くん(普代中1年)

最初は苦労しましたね

最初はチョウのことが分からず、苦労しました。子どもたちと卵の調査をしたとき、学校の周りに植えたデフノトネリコに卵が付いていないときもあり、とても残念でした。6年目ですが、子どもたちと一緒に保護活動をして最近やっとチョウのことが分かってきました。



子どもたちを指導した相馬康仁さん(鳥茂渡小教諭・45歳)

チョウが住みよい環境に

銭袋金也さん(上区・64歳)

わたしが小学生のころは、家の近くの旧道の道路脇や畑の周りにデフノトネリコの木があつて、たくさんチョウがいました。今



は田んぼや畑、道路になって木もチョウも少なくなりました。いつも成虫観察会をやっている場所がたまに自分の所だったので、暇な時間をみつけて、フジを刈ったりしました。子どもたちが、一生懸命やっているので、少しでもチョウが少なくならないようにと思っています。でも、幼虫がいる木を切ったり、さなぎのときに間違つてのぼつても駄目だから、これからは、尾形さんに整備の時期ややり方を聞いて、もっとチョウが住みやすい環境にしたいと思っています。